

2004～05年秋冬企画のポイント

東京都立産業技術研究所アパレル技術グループ 嶋

明

厳しい環境が続くなか、生活者は先行き不安を打開するために、「信頼・共感」などを求め、「安心・安全・安定」した物事に関心を持つようになっていきます。そしてより積極的に心地よい「自分らしさ」を指向するようになりました。その動きには二つのポイントがあります。一つは「スローライフ」の考え方です。生活に対する満足感を、自分の身の丈に合ったリズムに合わせ、ゆっくりと形成し発酵させていこうとする流れです。もう一つは「アップビート」の考え方です。アップビートとは、自分が目指す「ご機嫌な環境」に対して優先順位を付け、実現していこうとするものです。このように生活環境のなかで、生活者一人一人の裁量による「緩急の流れ」が出現します。提案の「ブレーキとアクセル」の見極めが、求められるシーズンです。

■社会環境

- 自分なりの不安解消、堅実さや満足度を模索する動きが出現する。
- 経済や食品、健康など、次々と新しい不安材料が出現し、心理的に負の要因が増加。新たな気分転換の材料が求められる。
- 「人にやさしい」エコロジー環境が再注目。経済活動でも人間らしさが求められる。
- 2005年「愛・地球博」日本国際博覧会愛知が3月25日～9月25日まで開催。
- 世界オリエンテーリング選手権大会が愛知にて8月10日～15日まで開催。
- 急速なグローバル化に対し、ローカルスタンダード(地域の、地元の)が注目。アジアからの提案など、リージョナル(Regional: 特定地域の、地理や機能、社会、文化などの特徴を持つ地方)なものも注目される。

●環境との調和意識は、新たなビジネスチャンスを誕生させる。

■市場環境

- 中国やアジア諸国への生産依存やシフト化がさらに拡大する。
- 価格破壊は生活者の価値観を変え、国内産地に多大な影響を及ぼした。こうしたなか市場は多様な伝統や技術力を模索している。
- 企業体に属さない個人クリエイターの発想力や取り組みが業界に影響を与える。アニメやマンガ、ゲームのキャラクターが、ファッションビジネスでもスーパースターに。
- 一人勝ち「ナンバーワン」を目指していた市場から、デザイン価値や独創性を重視した「オリジナルワン」へ転換。
- 価格満足だけではない「安心感」の追求。良いものを育てる意識が高まり、多品種少量市場の確立とともに、所有から共有利用意識が高まる。
- インターネットによる情報のスピード化がより進み、企業と個人が身近になる。
- 利便性とこだわりの二極化により、妥協と執着の使い分けが出現。欲しいものはあらゆる手段を通してでも入手。
- 消費をする層としない層にはっきり分かれる。消費する層：若い女性、30～40代



STREETSTYLE

■1 AUTUMN ELEGANCE



STREETSTYLE

■2 TRADITION



の独身男女など。

- 高齢化、晩婚化、未婚化、少子化などの影響から、従来の枠を超えた社会を迎える。中高年市場の開発に取り組む企業が急

増。またキッズ市場の減少により、業態変化も。

■生活者環境

- 物質消費型から、生活者のライフワークの「場・空間」を想定した時間消費型へと生活価値観は変化。余暇活動のなかにある潜在的な欲求が重視される。
- 自分なりのマイオンリーワン型消費が進展。オン・デマンド（on demand：訴求する）意識が強まる。
- 元気になれる、楽しくなれる、幸せになれるモノ・コトが訴求され、棲み分けが進む。これにともない平均化されたものは衰退。
- 未知な場所や歴史的な遺産、大自然との接点など、非日常的な物事が注目。
- 成熟感が進行し、変化に敏感な生活者が台頭する。

■新しいターゲット女性像のイメージ

- 脆く、透明感のある感性さを持ちつつ、内面に自我の強さを併せ持つ女性：ジェーン・パーキンス。
- 理知的であり、同時にセクシーな怪しさを持つ女性：ニコール・キッドマン。
- NHK朝の連続ドラマヒロインに見る、明るいユーモア感を持ち、おおらかで「母性的」であり、スポーティで活動的、しかしミステリアスな部分もある陰影に富んだ女性。
- クラシカルなエレガントさを着こなす大人感と、ファッションルールを無視するようなアバンギャルドさを持つ少女の二極面を持った女性。

■2004～05年秋冬ファッション傾向

2004～05年秋冬に求められるインスピレーションの源として、第一に把握しなければならないことは「リアル感」です。近年のファッション傾向は、微妙な差違は見られるものの継続提案が多くなっていま

す。そのため企画では、鮮度を失わないようにマンネリ化しないようにと新たな企画を模索し結果的に、堂々巡り、出口なし的な提案が目立ち始めているようです。そのため今シーズンは提案素材の「核」として使い古された手法ですが、再度題材の本質に立ち戻り、より「リアル」な視点を把握すること。それに企画者の持ち味を活かした「付加量」が求められています。例えば、今後さらなるクローズアップされる「自然」という題材。私たちは有機的な自然の大切さを問い、市場に提案しますが、その実は単に遠くから「山や海」を眺め、漠然と分かったような気がして、曖昧としたイメージの中で企画を立てていたのではないのでしょうか。都会生活者と自然の中には「距離感」があります。これをどの様に理解し「リアル」に埋め合わせる作業、また独自の力量で「何を味付け」するかといった思考が求められているのです。そのため自然観を具体的な表現で実践していたスポーツやアウトドア業界のリアルアクティブな題材などが注目され、新たなファッション化が行われるのです。

「リアルな基本型+新しい仕掛け」の組み合わせを「ダブル・センセーション：Double Sensation：二重感覚（以下DSと略す）」と云います。

(1)新しい仕掛けとして

●リアリティ：Reality：現実感

新しい時代を認め、物事の実像をしっかりと把握し信頼感や安心感を得ることが求められています。例えば都市に暮らす人々と自然環境のあり方。伝承される風土民族の風習と現代感への焼き直し。拡散するストリート・カジュアルと正統や伝統と評価される服飾とのバランス域が再考されます。

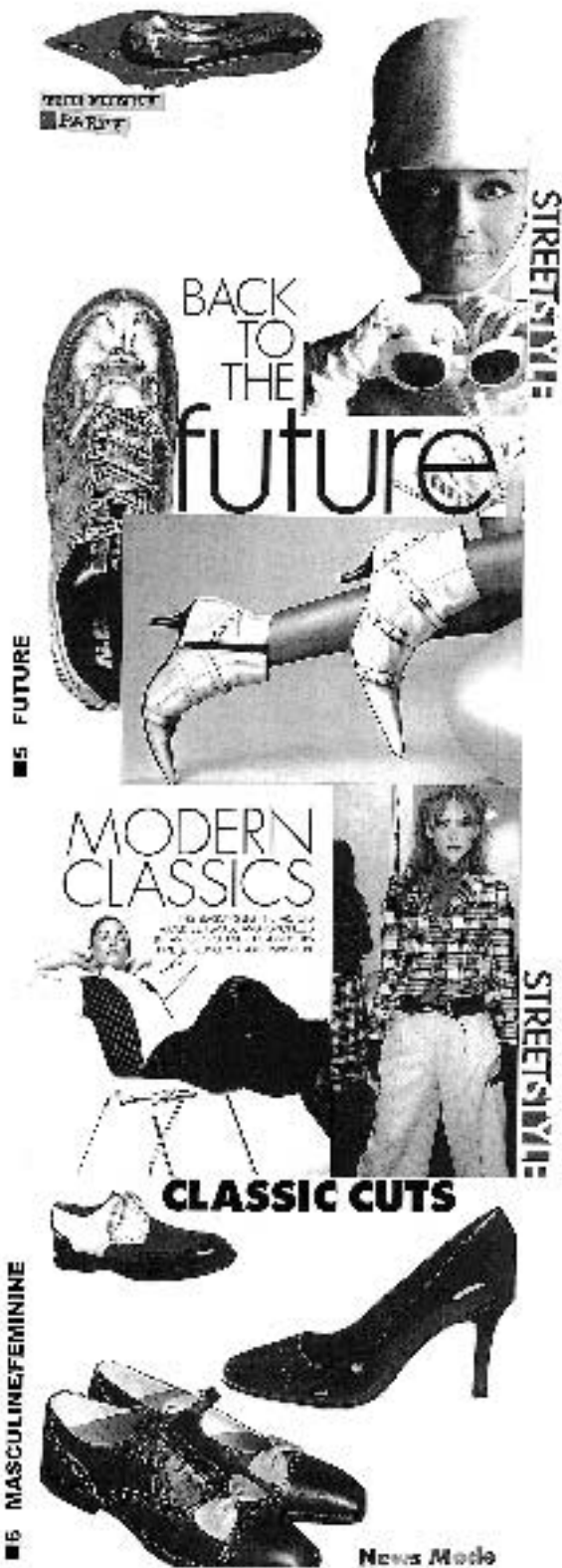
・より現実的に、より実在的に、より信頼



的に表現。

・DS：都会と自然感の差。現代と伝統や民族習慣の差。

●センチメント：Sentiment：感傷、心情



継続的なテーマです。情緒性があり懐しさのなかに、ロマンチックやファンタジックなもの、ノスタルジックやエモーショナルなものが構成されます。クリーンな近未

来感と、過ぎ去りし過去の記憶を呼び覚ますような題材があります。

- ・より軽やかに、より繊細に、より官能的に表現。

- ・DS：現代と過去の差。人工的なミニマル感と肉感的な官能性の差。

- ダンディズム：Dandyism：お洒落の精神
これも継続性しています。男性的なイメージを基に、上品な正統性を追求したものから、その対極にある挑発的な不良感まで幅広く表現されます。

- ・より大胆に、より挑発的、より魅惑的に表現。

- ・DS：正統性とアバンギャルドの差。マスキュリンとフェミニンの差。

- エスプリ：Esprit：精神

2004～05年秋冬のテーマとして全体を覆うのが「大人の贅沢感」です。年齢の積み重ねとともに身に付けてきた、洗練された感性や合理性。また、厳格さや狡猾さなども共存します。

- ・より贅沢に、より上品に、より優雅に表現。

- ・DS：高級なものと古色感の差。大人と子供の差。厳格さとキツユサの差。

(2)注目スタイル

- ダブル・ウェアリング。レイヤード。ダブル・ディテール。

- アッセンブラージュ：assemblage：雑多な日用品を寄せ集め作品化する現代美術。異質なものの寄せ集め。対極にあるものの組み合わせによる違和感が新機軸を構成する。ベーシック感覚とこだわりの遊び心とを組み合わせ、バランス感のあるもの。

- きれいめ、ほっそり、しなやか、すっきり、爽やか。余裕エレガンス。ファッション上級者の大人の遊び。

- ラフ、ゆったり、ざっくり、ユルユル、

まったり。快適感を追求した楽しいカジュアル感。

- スタイリッシュ。しっかりしたメンズ仕立ての凛々しさと、ボディやセクシーさを強調したフェミニン感覚な都会的でスイートな表現。
- 自然に楽しむためのアクティブスポーツやアウトドアのファッション拡大化。

(3)注目素材

- サープライジング・タッチ(見た目と触感がまったく異なる素材)。ダブルフェイス。ダブルニット。ボンディング。
- 差別化を狙った素材開発が重視される。例えば、エコロジーやリサイクルなどの環境対応素材。健康や美容などの効果や安全性がわかる素材。世界との競争力としてジャパンメイドの素材。マニアを狙った超テクニクなクラフト感覚の素材など。
- 超ドライ、超ウエット、超クリーン。
- 上質と繊細。洗練されたラステック感。
- シレのような光沢感、ラッカーのような表面感。とろみのある優しい感覚の素材感。
- ヒダのあるドレープ感や、泡立つようなクリスピー感など、プレーン・コンパクトなものから動きや凸凹感のある素材表現へ。
- デリケートな多色使いや色を随所にちりばめたネップ入りの織編地。

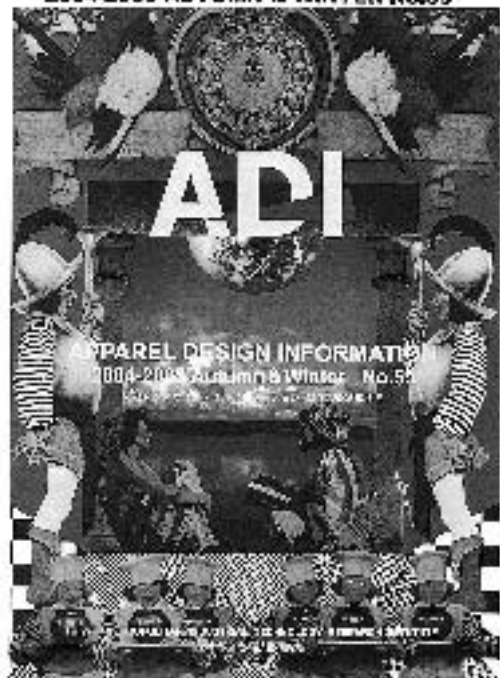
(4)注目柄

- ダブルストライプ。パターン・オン・パターン。
- 装飾的な柄表現が継続し、プリント・オン・プリントなどが出現。中心柄域では、花やペイズリー、ジオメトリック、ストライプなど。
- 柄のインスピレーション源では、時代から抽出される様式美。中世～近世～現代、



APPAREL DESIGN INFORMATION

2004-2005 AUTUMN & WINTER No.59



幼年時代。自然環境からの柄。伝統的な文様表現。オプチカル・イリュージョン。

- 柄の大きさでは、無地調の極小柄と極大柄の両極化が継続。

- 表現方法では、輪郭を曖昧に表現するような「ぼかし、にじみ、かすれ、ひっかき、型ずれ調」などが浮上。

(5)注目色彩

色落ちしたような年代を感じさせる色みに変わり、色の復活傾向が進行しています。穏やかな豊穡感のある色彩や宝石のような輝きを持った色が出現します。また、はかなさやロマンチックな美しさ、脆さ、そしてクリーンな高貴さを表現するデリケート・ミキシングが注目されます。

- 自然観のイメージカラーが注目。秋の果樹園や植物園のビタミンカラー。自然の曖昧さ、動植物の迷彩感。未知の島々に棲む動植物、昆虫。月、夜空、宇宙など。

- 色相では、暖色系のイエローからブラウンが増加。寒色系はバイオレット系以外減少傾向にあります。中性色はピンク、イエローグリーンが注目。

- 色調では、明度は中～低明度のやや抑えた暗さや穏やかなもの。彩度はリッチ感のある中～高彩度が出現します。ダーク～グレイッシュ系がボリュームを作り、新しくディープ・トーンが台頭。

- 配色は、明度や彩度の対比を強調する方向へ変化しています。ダークやディープ系をベースに、ミックス配色が主流となっています。バイカラー配色や大胆なコントラスト配色、カラー・ブロックング。また、こぎれいなカマイユ配色など。

(6)注目靴イメージ

- ファッションの色復活に伴い、様々なカラー使いが注目される。元気の出るようなポップ感のあるビタミンカラー。アシッド系のライムやその補色関係にあるフューチャーピンク。人工的な蛍光カラーやメタリック効果のものが台頭。

- 装飾的なものの付加。贅沢なジュエリー風のものからビーズを用いたもの。自然

との調和を図るようなフラワーモチーフ。60年代からヒッピー感覚の表現を用いたノスタルジックな柄域。またリボンのバリエーション。エスニックからフォークロア調の広域な伝承的柄域。

- ブーツの浸透は、各種アクティブなスポーツ感覚表現のバリエーションに拡大。乗馬風のものでは競技タイプのものからカウボーイタイプやインディアンブーツまで。またバイクライダー風。ボクサーやレスリング風など。

■最後に

2004～05年秋冬が求める、基本の把握とその肉付けは、企画者の商品への「思い入れ」が求められるシーズンでもあります。そして、ファッション産業は「人に夢を与える」産業です。知恵と工夫と新たな魅力のある商品を提案していきましょう。

「2004～05年秋冬企画ポイント」は、東京都立産業技術研究所が発行する情報誌「アパレル・デザイン・インフォメーション(ADI)」第59号の作成資料を基にまとめました。

連絡先：03-3624-3942 (デザイン情報担当)

